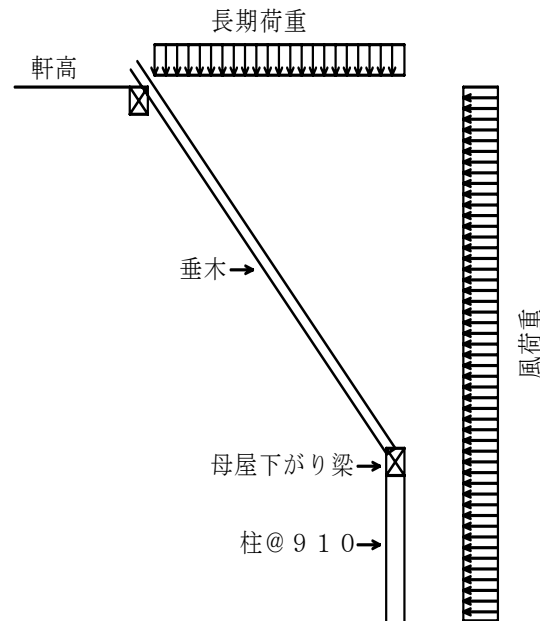


急勾配時に「母屋下がり梁」が「耐風梁」になってしまうのか考えてみたのですが、ご指摘お願い致します。

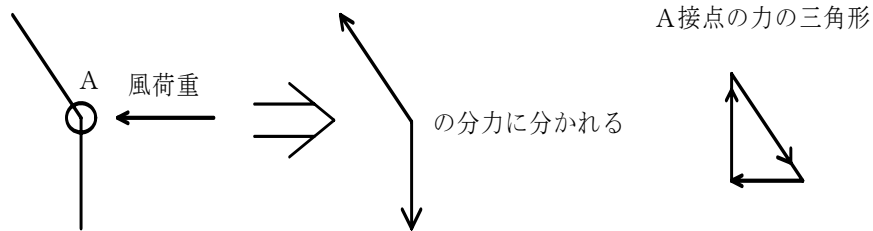
母屋がり梁には直交の押さえ梁は入れられない。外壁～外壁まで押さえ梁無し。

「母屋がり梁と柱」「母屋下がり梁と垂木」は金物にて緊結。



風荷重時

風荷重時に「母屋下がり梁」が←方向に移動しようとする



つまり「A接点」においては力の三角形が閉じて、垂木・柱共に圧縮材になる。
よって、「母屋下がり梁」は耐風梁とならない。(水平方向にはたわまない)
と結論付けたのですが、思い違いはありますか？

長期荷重時

長期荷重は垂木に軸方向の荷重 ↓ の分力に分かれる。
垂木に直交する荷重 ↙

確かに「垂木に軸方向の荷重」は「母屋下がり梁」を外側に押し込んでしましますが、
同時に「垂木に直交する荷重」が室内側に押し込むと思うので結果的に相殺されて
水平方向には力がかからないと言えないでしょうか？

しかし、「登り梁が下側の受梁を外側に押し込んでしまった。」という事例を聞いた事があります。
鉛直方向にしか力がかからないとすれば、こういう事例はおこらないはずで

どこかで思い違いをしているのでしょうか？